

浄泉寺報

第30号
2022年
秋彼岸



三折御本尊

「仏さま」って何？

(前号につづいて)

浄泉寺住職 望月廣三

コロナ禍が拡大したくらいで、何でこんなにみんな慌てるのだろうか？—こんな疑いをいただく人はすくなくないでしょう。しかし、こうした不安の原因は何なのか。どうしたら、こうした不安から脱け出せるか、などと考える人は多くないはず。それは、われわれ人間の頭の構造が、内面に

向かうのを苦手になっているからではないでしょうか。そのために、「不安」という呪縛から出られないのではないのでしょうか。

コロナに罹れば治療するのは当然ですが、果たして治るのか、死ぬのでないか、と怖れるこの「不安の治療」を何とかしなければ、根本的な救いにならないのです。「肉体の治療」は医者にお任せすればいいのです。病気が治ればそれで問題なし、万歳だ、と喜びますが、それでは解決にならないのです。「不安」を治療しなければなりません。そうしなければ、真に心の「平安」は得られないのです。本当の「平安」はコロナに罹っても怖れない、どんな災難に見舞われても「平気」だと言える、そんな覚悟なのです。次号もこれについて、もうすこしお話しします。

浄泉寺からのお知らせ

● 報恩講 ●

十二月の報恩講のご案内は、後日お葉書にてお送りします。ぜひお参りください。



● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

・ 若坊守のひとりごと ・

二〇一〇年、お寺が焼失したと夜中に母から電話を受け、受け止めきれず夢の中のような気持ちで荷造りをし、翌日電車に乗りました。席につき、隣に座るサラリーマン風の男性をちらりと見ながら、

「この人は普通の顔をして隣に座る私の家が、昨夜に全焼したなどと想像もしないだろう」とぼんやりと考えていました。しかしふと、私に起こることなのだから、この車両にいる誰かにも同じようなことが起きているかもしれない。大切な人が亡くなったり、今病気で苦しんだりしているかもしれない。ああ、苦しいのは私だけではない。自分の辛さを通して周りを見ると、見えてきたのはみんなと同じ地平に立った自分の姿で、それは「みんな苦しみ悩んでいる」という地平です。その地平に気付いた時、目の前の世界がぐんと広がり、これまでと景色が一転した様に感じたのです。

なぜ自分だけがこんな目に、ということが多々ありますが、みんな苦悩の大地に立つ同朋だと思いませんか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ⑳ ～ 回 向 ～

お彼岸のお参りでも皆さんと一緒に勤める『正信偈』のお勤めは『正信偈』→念仏→和讃→回向と順に勤めます。ちなみにこのようなお勤めの仕方になったのは、室町時代・本願寺8世蓮如上人の頃といわれています。前号では「和讃」について取り上げました。今回は、「回向」についてご紹介します。



まずは「回向」という言葉ですが、一般的には亡くなった方に対する追善供養のことを意味したりしますが、浄土真宗では、私たち人間存在を丸ごと照らし出す仏さんの「他力」のはたらきのことをいいます。つまり、私たち人間に亡くなった方を成仏させる力がある訳ではなく、むしろ諸仏となった亡き人から、私たちは「いのち」の意味を照らされながら生かされているということです。

さて、「願以此功德」で始まる回向は、親鸞聖人が大切にされた七高僧といわれる七人の僧侶の中の一人、中国の善導大師が書かれた「観経疏」玄義分にある『勸衆偈』(われわれに仏・法・僧の三宝に帰依することを勧める内容から「帰三宝偈」ともいう)という偈の最後の4句にあたります。なお『勸衆偈』は、葬儀に先立つ棺前勤行でも用いられます。

書き下し文にすると「願わくは、この功德をもって、平等に一切に施して、同じく菩提心を発して、安樂國に往生せん」となります。では、この文の主語は誰かということ、「仏さん」ということになります。そして安樂國、つまり浄土に生まれることを約束されているのは一切衆生、つまりはこの「私」です。「平等」で「一切」というこ

とは、どんな人生であっても、人間の価値観での良いも悪いもすべてひっくるめての救いが約束されているといってもいいでしょう。

人間の善悪の価値観では、人間は絶対に救われません。例えば、お互いに正義を立てた戦争がなくならないように、人間が握りしめる「善」には限界があります。そんな人間に許されるのは、「自分さえよければ」という心しか持ちえない私のあり方を仏さんの智慧によって照らされ続けることしかありません。「嗚呼、なんと愚かな私であったか…」それが「南無阿彌陀仏」の念仏の溜息なのでしょう。(浄泉寺若院・釋垂世)

令和4年(2022年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和3年(2021年)亡
三回忌	令和2年(2020年)亡
七回忌	平成28年(2016年)亡
十三回忌	平成22年(2010年)亡
十七回忌	平成18年(2006年)亡
二十五回忌	平成10年(1998年)亡
三十三回忌	平成2年(1990年)亡
五十回忌	昭和48年(1973年)亡

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>